

田原小だより

田原小 HP



第670号

令和3年2月26日
台東区立田原小学校
校長 白井 正之

令和2年度を振り返り、これからの学び

校長 白井 正之

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策に追われ続けました。臨時休業に始まり、台東区教育委員会の感染症予防ガイドラインも現在第4版となっていることから、改定されるたびに計画の練り直しをしてきました。制約がとて多くなり、してはならないこと、しなくてはならないことが、とて多くなりました。そんな中、児童は決まりを守り、条件を満たした学校生活を続けてきました。濃厚接触者となり、PCR検査を受けるというケースはありましたが、そのほとんどが陰性で、そうでなくても他の児童が濃厚接触者に当たらないという保健所の判断をいただきました。これも大事をとって休ませるといご家庭のご配慮があったからと感謝しています。

デジタル教科書を活用し、視覚からの学びの機会や作業を多く取り入れた学びで、臨時休業の遅れを取り戻してきました。説明を受けるような学びは定着率が低く、活動を通して児童が説明するような学びは定着率が高いので、そのような授業展開にするよう教員へ繰り返し伝えてきました。児童の発表の機会がたくさんある授業展開が多くなってきました。

令和2・3年度台東区教育委員会研究協力学校として、外国語科（5・6年）、外国語活動（3・4年）、英語活動（1・2年）に取り組んでいます。コミュニケーション能力の向上をめざして、デジタル教科書のチャンツやイレイサーゲーム、ラインゲームで盛り上がり、後半にミッションゲームを児童間で行い、英語でのやり取りがしっかりできるようになりました。3学期には高学年が、上智大学短期大学部英語科教授の狩野先生や小学館の方から辞書引きの指導を受けること、英語科の学生たちと児童が大学のパソコンを借りてズームでコミュニケーションを図ること、それと合わせて高学年の研究を進める予定になっていましたが、緊急事態宣言の発令によりすべて実施できなくなり、次年度送りとなってしまいました。

一人1台のタブレット端末がようやく導入され、教員が研修を受けて活用が始まりました。教室での活用が2月中旬に始まりましたので、年度内に家庭での利用環境をチェックする予定です。そのためにサポートなしで児童がパスワードでのログインを自分でできるようにする必要があります。次年度には、学習のツールとなることを期待します。

生活指導部より

生活指導部 高橋 浩之

2月の生活指導目標は『体をきたえよう』でした。校庭遊びでは、なわ跳びに取り組む児童が多く見られました。友達と見合って跳んだ回数を教えて、『なわとび頑張りカード』に記録したり、跳び方を教え合ったり、ひたすら練習に取り組んだりと積極的になわ跳びに取り組む様子が見られました。「できない技ができるようになった。」という児童の声をたくさん聞きました。ご家庭でも頑張りを褒めて、励ましていただけたらと思います。

3月の生活指導月目標は『友達となかよくしよう』です。田原小学校の教育目標の一つに、『思いやりのある子』が挙げられています。みんなが気持ちよく、学校が楽しいと思える居心地のよい場所になってほしいと強く願いながら、今後も指導を続けていきます。